

「エコスクール」

近年、地球環境の悪化が深刻化し、環境問題への対応が人類の生存と繁栄に緊急かつ重要な課題となっております。そのような中で、21世紀を担う子どもたちへの環境教育はきわめて重要な意義があり、ユネスコにおいては、持続可能な社会づくりの担い手を育む教育（「持続可能な開発のための教育（ESD）」）が推進されています。

国では、学校施設において、環境負荷の低減や自然との共生に対応した施設を整備するとともに、未来を担う子どもたち、更には地域の住民が環境問題を身近に感じられるような工夫を行うことが重要であるとし、「環境に配慮した学校施設（エコスクール）」の整備の充実に力を入れています。

今回の改築事業においても、これらのことを踏まえ、環境教育・省エネルギー化・ランニングコストの低

減を大きな課題として検討をすすめています。

具体的に検討している項目としては、主に①断熱②日除け③地域木材の利用④リサイクル建材の利用⑤自然採光⑥自然換気⑦躯体蓄熱⑧施設内循環換気⑨高効率照明⑩自然エネルギーの活用などとなります。その中で2点ご紹介します。

◆太陽光発電

校舎の南側・東側の日当たりの良い壁面に設置する予定です。（※イラスト1）壁面に設置することで積雪の影響を受けず効率良く発電することが可能になります。また、発電した電力は災害時にも活用できるように検討しています。

◆アースチューブ

高気密、高断熱の建物においては、常時換気をする必要があります。外気をそのまま取り込むのではなく

地中に埋めたチューブの中を通すことにより年間を通じ温度がほぼ一定の地熱を利用し夏は涼しく、冬は暖かい空気を取り込むことができ、冷暖房の負荷軽減を図ることができます。（※イラスト2）

新たな技術、工法を取り入れ、自然との共生を目指すことは、未来に向けた取り組みとして重要です。まさに未来に「つながる学校づくり」が今すすんでいます。

【つづく】

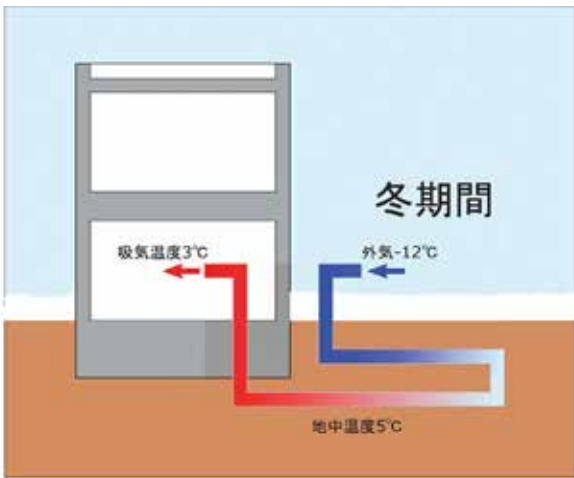


イラスト2 アースチューブの仕組み



イラスト1 太陽光発電設置イメージ